

2007年度ヒューマンインタフェース研究室
卒業研究発表会

研究テーマ：
「異文化コラボレーションのための
文化間絵文字変換ツールの開発」

大阪工業大学情報科学部情報科学科
A04049 神谷 尚吾

2008年2月14日

1

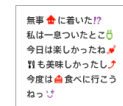
背景

絵文字の用途

- テキストベースのコミュニケーション(メールやチャットなど)において感情や微妙なニュアンスなどを表現するために用いられる



インスタントメッセージャーでの利用例



携帯メールでの利用例

2

背景

絵文字の分類

- 行為や事象, 物...動詞や名詞を表現
 - 「運動会」「話す」「東京タワー」



- 喜怒哀楽などの感情...形容詞や副詞を表現
 - 「かわいい」「うれしい」「悲しい」



©NPO法人パンゲア 3

背景

異文化コラボレーションにおける
絵文字使用の問題点

- 文化により絵文字解釈が異なる場合がある[CHO,2007]



- 日本での解釈
嘘をつく

- 日本での解釈
朝

- アメリカでの解釈
会話

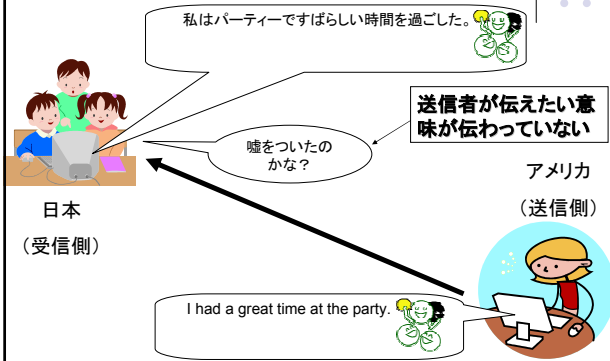
- ケニアでの解釈
ニワトリ

- 解釈の差異により誤解が生じる可能性がある

4

研究の目的

絵文字解釈の差異による誤解例

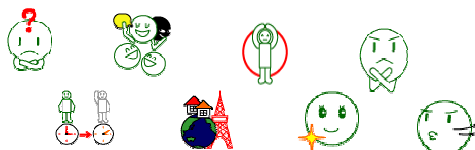


研究の方法

絵文字の例:ピクトン

- NPO法人パンゲア^{*1}で使われている絵文字
 - 世界の子供達が母国語を使わずに他の国の子供達とコミュニケーションをとるための1つの道具

•絵文字の例



^{*1} ©NPO法人パンゲア <http://www.pangean.com>

6

研究の方法

絵文字解釈の文化差の例

- バンゲアにおけるオンライン絵文字アンケート調査から得られた結果

日本の解釈	絵文字	アメリカの解釈
嘘をつく 42% 表裏 20%		会話 20% 友達 19%
寒い 64% 震えている 7%		怖い 29% 心配 17%
OK 44% まる 22%		体操 46% なわとび 11%
だめ 59% ばつ 19%		怒る 83% いいえ 6%

ピクtonあんけーと

日米における各絵文字の解釈頻度の上位

研究の方法

絵文字変換を組み込むツール: LangridChat

- NICT言語グリッドより提供されている異文化コラボレーションツール
- メッセージの多言語翻訳機能を備えたチャットツール

Langrid Chat²

多言語グリッドプロジェクト 異文化コラボレーションツール
http://www.nict.ac.jp/technology/2008/08/08_langrid_chat.html

変換機能

絵文字変換の流れ

- アメリカから日本へ絵文字を送信した場合の例

① 解釈が同じ

② 解釈が異なる & 別の絵文字がある

③ 解釈が異なる & 別の絵文字がない

変換機能

絵文字変換を組み込んだ チャット画面

日本側のチャット画面

アメリカ側のチャット画面

変換機能

ユーザヒアリングによる改善点

- 絵文字変換のプロセスの提示
 - 絵文字の送信前に【変換される絵文字】を示す
- 絵文字解釈の文化差内容の提示
 - 絵文字選択時に他の文化ではその絵文字がどのように解釈されるのかを示す

今後の展望

- 日米以外の文化間における絵文字変換
 - 解釈語データの収集、分析
- 固有のシステムに依存しないwebサービス化